

4. 炭焼きに関する考察

木炭を作るときのエネルギーについては、今回の実験では、炭焼きのために電気やガスを使っているため、エネルギーとしては損をしていることとなります。実際の炭焼きでは、窯の温度を上げるために、窯に入れる木材（炭材）の10%程度の木材が燃えてしまうこととなります。

しかし、山で使われずに捨てられる木材や廃材などを炭焼き窯で木炭にすることで、燃料としてはもちろん、脱臭、除湿、土壌改良、飾り炭、水質浄化、マイナスイオン放出などに効果があり、実際の炭焼きでは得られるものも多くなります。

また、炭の形や多孔質のようすを観察するとともにその性質を知ることによって、「炭」による自然の力を身近な生活に活用して楽しめます。

実際の炭焼きについて、次のように考えることができます。

1. 木材の廃材等を利用したリサイクル産業である。
2. 循環型社会システムの実体験である。
3. 炭は、燃料以外の多面的活用ができる資源である。
4. 炭は、私たちの生活を安全・安心なものに変えてくれる資源である。
5. 自分でできる環境対策である。
6. 炭焼きを通して、環境問題を考えることができる。
7. 炭焼きを通して、資源は身近なところにあることが実感できる。
「周りはずべて資源なり」
8. 炭焼きこそ「炭素を固定」する、究極の環境保全である。
9. 間伐材を利用することで、里山の木々や、里山に関わる人が元気になる。
10. 炭焼きを通して、自然と人間の生活との間に、循環が復活する。

夢創塾塾長 長崎 喜一